

検査情報月報 1月号 ▶ 概要版 ◀



▶ 横浜市衛生研究所では、所内で実施した試験検査などの結果に解説を加えて、**検査情報月報**を発行しています。



2023年2月発行

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和4年5月～10月）

▶ 横浜市蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として、市内の公園で蚊成虫の生息状況を調査しています。蚊媒介感染症には、デング熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎、マalariaなどがあり、それぞれ媒介する蚊の種類が違います。▶ そのため、平常時から地域特有の蚊成虫の生息状況を把握しておくことは、病原体の侵入を監視し、感染症の地域流行を防ぐ対策のひとつになります。

主な結果 ▶ **ライトトラップ法**による調査は、22公園で延べ230回行い、捕獲数は7属12種8,134個体でした。最多がヒトスジシマカで5,785個体(71.1%)、次いでアカイエカ群が1,473個体(18.1%)でした。▶ **人囀(ひとおとり)法**による調査は、1公園(3定点)で延べ36回行い、ヒトスジシマカが195個体捕獲されました。▶ 雌成虫について実施した、蚊媒介感染症の原因ウイルスの**遺伝子検査は全て不検出**でした。

魚介類中のPCB検査結果（令和4年度）

▶ PCBとは、ポリ塩化ビフェニルの略称です。化学的に安定で、不燃性、高絶縁性などの特徴を持つので、変圧器、コンデンサーなどの様々な用途に使用されてきました。しかし、カネミ油症事件による健康被害が社会問題になり、現在は製造・輸入ともに禁止されています。▶ また、PCBは分解されにくく脂肪に溶けやすい性質があります。そのため、環境中に放出されたものが食物連鎖の上位に位置する生物に蓄積され、魚介類、肉類、乳製品などに汚染が広がり問題となりました。

主な結果 ▶ 5月と10月に中央卸売市場本場で収去した市内に流通する魚介類9種10検体について、PCBの検査を行いました。▶ **マサバ1検体からPCBを0.01ppm検出**しました。この値は、暫定的規制値以下でした。

横浜市衛生研究所 検査情報月報 表紙のコンセプト



▶ デフォルメした試験管の中の液体(マゼンダ系の色)で、『検査情報月報』と『研究所』の頭文字「K」をデザインしました。▶ 試験管が重なって見える中央部分のダイヤ型の模様は「**検査の精度**」を、それが鏡面のような所に映り込むことと、シンプルな全体は「**クリーンな検査**」をイメージしています。▶ 全体では、花が咲いた形で「**花開く技術レベルと信頼性**」が表現されたマークです。

ようこそ横浜市衛生研究所へ

検索

紹介動画 公開中 !!

<https://www.youtube.com/watch?v=dWTuDPSBj8>